動力消防ポンプの部

競 技 内 容

- 1 出場するチームは、進行係の指示に従い、ポンプ、ホース及び筒先を指定位置に配置し、事前準備をした後、全員発進線に整列する。
- 2 操作開始
 - (1) 発進は警笛の合図（二声は中止の合図）による。
 - (2) 発進合図があるまでは、隊員の並び方を変更しない。
- 3 操作分担
 - (1) 隊長は、吸管投入、真空ポンプレバー操作及び枕木設置とする。
 - (2) 1番員は、ホース延長及び筒先操作とする。
 - (3) 2番員は、ホース延長及び筒先操作の補助とする。
- 4 操作要領
 - (1) 隊長は、吸管を投入し、真空ポンプ（吸水）レバーを操作する（結合は事前に準備しておく。）。
 - (2) 枕木は水そうに吸管が接する位置へ放水開始までに取り付ける。
 - (3) ホース延長方法は自由とする。
 - (4) 1番員は放水線に至り、放水体制をとった後「放水始め（呼称と同時に右（左）手を真上にあげる）」と合図する。
 - (5) 隊長は1番員の「放水はじめ」の合図後、右（左）手を真上に上げ呼称を復唱しバルブを開く。
 - (6) 火点的に向かって放水し、的を二つ倒した後、審査員の「放水やめ」の合図（警笛二声）により1番員は「放水やめ」と呼称する（2つの火点的を倒す順番は問わないものとする。）。
 - (7) 2番員は、1番員の「放水やめ」の呼称後、隊長に「放水やめ（呼称と同時に右（左）手を水平にあげる）」と合図する。
 - (8) 隊長は2番員の「放水やめ」の合図後、右（左）手を水平に上げ呼称を復唱しバルブを閉め放水を停止する。
- 5 撤収・解散

審査員の「おさめ」の合図（警笛三声）により隊長は「おさめ」と号令し、各自（1番員は筒先を持ち）発進線に帰り整列する（ホースは運営要員が撤収する。）。
全員が整列した後に、隊長の指示で解散する。

図 解	審 査 項 目
	<p>順位は消火タイム順とする。 ただし入賞等要件は反則のないチームとする。</p>
	<p>反 則 項 目</p>
	<ol style="list-style-type: none"> ① 枕木の取り付けを忘れた。 放水までに間に合わなかった。 ② 1 m以上ホース金具を引きずった。 ③ ポンプの圧力が0.4 MP aを超えた。 ④ 吸管投入前に、真空ポンプ（吸水）レバーを操作した。 ⑤ 放水体勢前に「放水始め」を合図した。 ⑥ 「放水始め」「放水止め」の合図を忘れた。 ⑦ 「放水始め」の合図前にバルブを開いた。 ⑧ 放水線を踏んで（越えて）放水した。 ⑨ ホース結合部が外れて水が出た。 ⑩ その他審査責任者が必要と認めた事項。
<p>その他留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 直径1メートルの円内にポンプを置く（方向は自由）ものとする。 2 筒先口径は、16mmを使用する。（替口は大会主催者で準備する。） 3 使用ホースは、径65mmを3本使用する。（1本の長さ20mとし、通常使用におけるホースの伸縮による誤差は、50cmまで認める。） 4 麻ホースを使用する場合は、著しい漏水のないものにかぎる。 5 ポンプ圧力は、0.4 MP a以下とする。（一瞬でも0.4 MP aを越えれば反則とする。） 6 吸管投入後、ストレーナー部分の浮上を防ぐため、各チームから補助員が1人つくものとする。 7 枕木は水そう枠に接して置いてある板の上に置くものとし、大会主催者で準備したものを使用する。 8 競技開始前に真空ポンプスイッチは「切」の状態にしておくこと。 9 ポンプをセットした後の試運転は1回（15秒以内）のみ認める。 10 競技者が用意する資器材は法令適合品を使用することとし、競技目的での改造等（動力消防ポンプの改造、長さ調整のためのホースの切断等）は認めない。 	<p>消 火 タ イ ム</p>
	<p>消火タイムは、発進から消火（火点的2つを倒す）までの所要時間とする。</p>